

スポーツ少年団FAQ

Q 何歳から登録できるの？

A スポーツ少年団には満3歳から年齢の上限なく団員として登録できます(登録する年の4月1日現在)。スポーツが得意な子どもだけでなく、苦手な子どもも大歓迎です。もちろん、中学生や高校生の登録も可能です。中には団員をまとめ指導者の補助的な役割も担う“リーダー”として活動し、将来の指導者を目指す人もいます。

Q どこで活動しているの？

A 主に地域の学校や公共施設で活動を行います。近隣の団体と合同で活動する場合や試合などがある際は、別の場所で活動することもあります。また、総合型地域スポーツクラブと連携して一緒に活動しているスポーツ少年団もあります。

Q どんな人が支えているの？

A 地域の人々が関わり、それぞれの立場で、活動の運営や支援を行っています。それぞれのスポーツ少年団は、「指導者」「役員」「スタッフ」、保護者や地域住民からなる「育成母集団」などによって支えられています。

Q 指導者ってどんな人？

A スポーツ少年団の「指導者」は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格を保有しています。それぞれの団には指導者が2名以上いるので団員は安全に活動することができます。地域の方々や団員の保護者などが指導にあたり、スポーツを通じた子どもたちの成長に携わっています。

スポーツ少年団ではこんなこともやっています！

<リーダーの育成>

「ジュニア・リーダースクール」や「シニア・リーダースクール」等の事業があり、小学5年生～大学生年代を対象に、団員をまとめ指導者の補助的な役割を担う“リーダー”養成を行っています。

<指導者の育成>

「JSPO公認スタートコーチ(ジュニア・ユース)養成講習会」や「ジュニアスポーツフォーラム」等の事業があり、スポーツ少年団の活動を運営・支援する方の資質向上を図っています。

<国内交流>

「JAPAN GAMES JUNIOR & YOUTH」や「エンジョイ!スポーツフェスティバル(実施種目:軟式野球、バレーボール、剣道)等の大会があり、全国の仲間とスポーツ等を通して交流を深めています。

<国際交流>

「日独スポーツ少年団同時交流」等があり、スポーツ少年団のリーダー等が両国のスポーツ現場の視察やスポーツ環境に関する情報交換等を通して交流を深めています。

日本スポーツ協会(JSPO)のホームページには、スポーツ少年団の活動を紹介している「スポーツ少年団事業概要動画」や、スポーツ少年団の組織や活動・運営のあり方などスポーツ少年団に関する情報を幅広く掲載しているガイドブック「スポーツ少年団とは」を公開していますのでぜひご覧ください。(右記二次元コードからアクセスできます)



スポーツ少年団活動への参加者募集!!

●お問い合わせ先

スポーツ少年団に関する詳しい情報については、日本スポーツ協会のホームページからご覧ください。



日本スポーツ少年団ホームページ

スポーツ少年団

検索

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE



スポーツ少年団のご案内

スポーツは一生のトモダチ

「スポーツ少年団」は、国内最大規模の青少年スポーツ組織です。



富樫 勇樹 選手

©千葉ジェッツふなばし



【写真提供:オールスポーツコミュニティ】



高木 美帆 選手

©アフロ



阿部 一三三・詩 選手

©アフロ



～スポーツ少年団から世界に羽ばたいたアスリートたち～



公益財団法人日本スポーツ協会日本スポーツ少年団

全国の子どもたちが、スポーツを通して 「こころとからだの成長」を 体感しています

多様な
スポーツを経験
できるのも魅力!!

ココが重要!!

スポーツ少年団の
3つの理念

詳しくはこちら



令和7(2025)年度現在、スポーツ少年団は全国各地で約2万4千団が3つの理念に基づき活動しています。そのなかで、60種類以上のスポーツ種目が行われており、約51万人の子どもたちが、スポーツ少年団での活動を通じて多くのことを学び、経験し、成長しています。

日本スポーツ少年団概要 [令和7(2025)年度現在]

創設	昭和37(1962)年	団員数	約51万人
団数	約2万4千団	種目	60種以上

令和4(2022)年に創設60周年を迎えた国内最大規模の青少年スポーツ組織です。

・アーチェリー	・サッカー	・ソフトテニス	・日本拳法	・ボクシング
・合気道	・山岳	・ソフトバレーボール	・ノルディックスキー	・ホッケー
・アイスホッケー	・自転車	・ソフトボール	・馬術	・ミニバスケットボール
・アルペンスキー	・銃剣道	・太鼓	・バスケットボール	・ミニバレーボール
・エアロビック	・柔道	・卓球	・バドミントン	・野外活動
・カーリング	・少林寺拳法	・綱引	・バトントワリング	・野球(硬式)
・カヌー	・ショートトラックスケート	・ティーパーボール	・バレーボール	・ラグビーフットボール
・空手道	・新体操	・テニス	・ハンドボール	・リーダー会等
・器械体操	・水球	・ドッジボール	・ビーチボール	・陸上競技
・弓道	・スノーボード	・飛込	・フィギュアスケート	・レスリング
・競泳	・スピードスケート	・トライアスロン	・フェンシング	・ローイング
・ゲートボール	・スポーツチャンバラ	・トランポリン	・武術太極拳	・ローラースケート
・剣道	・相撲	・なぎなた	・フットベースボール	・複合種目*
・ゴルフ	・セーリング	・軟式野球	・ボウリング	等

*複合種目とは数種類のスポーツを併行して行ったり、季節ごとに変えたりして活動を行う形態のことです。

スポーツの喜び

**「スポーツを楽しむ」
ことが目標です**

成長が著しい子ども時代には、まずからだを動かすことの楽しさや喜びを知ることが大切です。基礎的な運動能力や運動習慣を身につけ、生涯にわたってスポーツを楽しむ基盤を作りたいと願っています。



スポーツを通じた成長

**仲間との活動が
「こころの成長」につながります**

スポーツだけでなく、野外活動や社会活動、文化・学習活動など多岐にわたる活動を通して、子どもは協調性や創造性を養い、社会のルールや思いやりのこころを学んでいきます。これらが「こころの成長」を促します。



地域とのつながり

**「地域のキズナ」のなかで
子どもを支援する組織です**

スポーツ少年団は、指導者、役員・スタッフや地域の人々によって支えられています。スポーツを通じたネットワークの広がりが、地域内の交流を活発にし、よりよい地域づくりにも繋がっていきます。



【写真提供: オールスポーツコミュニティ】

年間の活動スケジュール例

種目別のスポーツ活動の他に、さまざまな活動を通して、子どもたちは多くのことを学びます。

ココが成長!!

4月: 習慣化する運動 (1日2~3時間程度/週2、3回の練習が目安)

5月: 運動適性テストII

6月: からだを動かすことの喜びを知る (スポーツ少年団では仲間と一緒にからだを動かす喜びを実感することができます。また、定期的な運動習慣も身につきます。)

7月: 野外活動 (キャンプやハイキングも)

8月: 礼儀やあいさつの大切さを学ぶ (指導者や保護者をはじめとする大人、学年の違う友達と交わることで、相手を敬う態度や感謝のこころ、あいさつの大切さを学びます。)

9月: コミュニケーション能力や思いやりのこころを養う (リーダースクールでの学習や団の活動などを通して、仲間や指導者とのコミュニケーションの取り方や、年下の団員との関わり方などを学んでいきます。)

10月: 社会活動 (地域にある公園の掃除をするなどの奉仕活動も積極的に)

11月: 運動適性テストII

12月: 遠征等で、他の団との交流も!

1月: 文化・学習活動 (スポーツの歴史やルールなどを学ぶ機会も)

2月: 自ら動く積極性が育つ (団体の中で活動し、交流試合などで初めて会う人とコミュニケーションをとることで、自らの意見を主張する自主性や価値観が育っていきます。)

3月: ココが成長!!

